

1B-22) Trans-sylvian approach の応用 (anterior temporal approach)

高橋 明弘・上山 博康 (北海道大学脳神経外科)
阿部 弘
黒田 敏・斉藤 久寿 (札幌麻生脳神経外科病院)
野村三起夫 (江別昭和会病院脳神経外科)

目的・対象: 後交通動脈自体から発生した動脈瘤2例と、後向き内頸動脈瘤1例、脳底動脈瘤1例に対して、trans-sylvian approach にて clipping した症例を video で供覧し、この approach の応用と限界について検討する。

方法・結果: superficial sylvian vein を可及的に剝離し、側頭葉からの bridging vein は切断する。側頭葉と vein の間から侵入し、anterior temporal artery を側頭葉から剝離し、側頭葉を後方へ圧排する。ほぼ真横から approach するので、内頸動脈後方の neck の確認が容易で、後交通動脈、P1-P2 部や中脳外側の処理が可能であった。脳底動脈に関しては、可能な限り sylvian fissure を dialal まで剝離し、M1 部を持ち上げ気味にすることにより clipping 可能であった。

結論: trans-sylvian approach で superficial sylvian vein の側頭葉側から侵入することにより外側への展開が非常に良好となった。

1B-23) 総頸動脈閉塞症に対する新たな血行再建 —椎骨動脈からの Radial Artery Graft—

上山 博康・中村 俊孝 (北海道大学脳神経外科)
大槻 浩之・阿部 弘
三森 研自 (北海道脳神経外科記念病院)

はじめに: 今回、総頸動脈閉塞に対し、橈骨動脈を用いて同側の椎骨動脈と中大脳動脈のバイパスを行い、満足すべき結果を得たので、この手術手技をビデオで供覧したい。

症例: 58才、男性。左顔面を含む半身のしびれ感と脱力で発症。脳血管撮影では、右総頸動脈・左内頸動脈はそれぞれ起始部で閉塞し、頭蓋内血管は両側椎骨動脈から造影されていた。SPECT では右半球に著明な両側の血流低下を認めた。Bonnet Bypass も検討されたが、将来の左側の血行再建の可能性も考慮し、右椎骨動脈の閉塞試験後、椎骨動脈—橈骨動脈—中大脳動脈という血行再建を行うこととした。

結果: 具体的な手技はビデオで供覧するが、心配された hyper perfusion や出血の合併もなく、両側大脳の著明な血流改善が認められた。未だ議論の多い方法と思われるが、今後、考慮に入れるべき方法と思われた。

1B-24) 脳動脈瘤に対する血管内手術2例の経験

宮町 敬吉・伊藤 輝史 (日鋼記念病院)
磯部 正則・藤原 昌治 (脳神経外科)

外科的治療が難しい脳動脈瘤の治療に血管内手術が導入されている。今回我々は、海綿静脈洞部内頸動脈瘤(28×22 mm)と脳底動脈瘤(17×11 mm)に対して、各々 proximal balloon ligation と microcoil embolization を行ったので報告する。症例1: 56歳女性。複視、右眼視力低下を主訴に当科受診し、脳血管写にて右海綿静脈洞部内頸動脈瘤を認めた。Balloon Matas Test (15分閉塞)並びに閉塞時 SPECT を行い、若干の右側頭部 CBF 低下を示した為に STA-MCA bypass 後、BALT Magic catheter, Balloon 硬化剤として HEMA を使用し内頸動脈 C5 部位で閉塞を行った。術直後から視力障害は改善し、1週後の MRI で瘤内血栓化を認めた。症例2: 57歳女性。SAH (H & K II, Fischer 2), 脳血管写により脳底動脈瘤を認め待機後 COOK 社 microcoil による embolization を行った。TRACKER-18 catheter を動脈瘤内に挿入し microcoil カール型 10, 7, 5 mm を挿入した。現在瘤内血栓化の経過観察中である。

1B-25) 静脈が責任血管であった三叉神経痛の手術例

畑中 光昭・内沢 隆充 (十和田市立中央病院脳神経外科)

Microvascular Decompression が特に顔面痙攣と三叉神経痛に有効であるが、その解剖学的特徴の差異として三叉神経の周囲には petrosal vein を初めとして、静脈及び動脈の複数、複雑な入り組みがある事で、責任血管にも静脈性の要素が顔面神経よりはるかに多いことが挙げられる。手術手技上も静脈に対するマニピュレーションが必要となることがあり、静脈還流の障害が重大な合併症を来すことを考え併せると慎重な処置が必要である。

我々が経験した63例の MVD 中、静脈性及び静脈と動脈両者の関与した三叉神経痛は13例あった。この中から petrosal vein による圧迫例を、VTR で提示したい。

静脈環流障害の有無、程度を知るため、静脈を糸で結